

東海沖の後氷期の海洋レザバーとその海洋古環境との関係

Marine reservoir age in off Tokai area during the deglaciation and its relation to paleoenvironments

池原 研 [1]; 檀原 徹 [2]; 山下 透 [2]; 棚橋 学 [3]; 森田 澄人 [4]

Ken Ikehara[1]; Tohru Danhara[2]; Tohru Yamashita[2]; Manabu Tanahashi[3]; Sumito Morita[4]

[1] 産総研・地質情報; [2] 京都フィッション・トラック; [3] 産総研・地圏資源; [4] 産総研

[1] IGG, AIST; [2] Kyoto Fission-Track; [3] Geological Survey of Japan, AIST; [4] GSJ, AIST-GREEN

東海沖から採取されたピストンコア試料の放射性炭素年代とコア中に挟在する三瓶浮布軽石の陸上での年代から推定される後氷期のこの海域の海洋レザバーは、現在よりも大きく 600-700 年程度と見積もられる。この大きな海洋レザバーは、氷期から後氷期にかけてこの海域に存在したことが推定されている冷水塊に関係し、北西太平洋の大きい海洋レザバーを持った水塊が東海沖まで達していた影響と考えられる。